

	団体名	所在地	事業名	事業概要	助成額（円）	内訳	選定理由
	一般社団法人 JYUYON14ACADEMY	滋賀県東近江市	スポーツが地域のインフラストラクチャー	本事業は、スポーツを通して市民、行政、企業が繋がり、地域で孤立する人や地域の様々な困り事（社会課題）の解決に取り組むことを目的としています。 <する>では、子ども、大人、高齢者、障がい児者とその家族がスポーツコミュニティの中でウェルビーイングを感じられるようになる事を目指します。 <観る>では、次世代で地域の中心となる子ども達が、障がい者スポーツを体験しながら地域におけるインクルーシブのあり方を考えるきっかけを提供します。 <支える>では、企業や行政と連携しながら、待機児童の課題、障がい者の就労の課題解決に向けた場所の設立を目指します。 <伝える>では、地域総合型スポーツクラブの理念やスポーツの価値、意義、「衣食住＋スポーツ芸術」を発信、地域の理解者を増やすと共に公益活動を担う次世代の育成にも繋がります。	11,130,000	< 直接事業費 > 10,035,000 < 管理的経費 > 565,000 < 評価関連経費 > 530,000	・スポーツを媒介とした「市民・行政・企業のつながり」というアプローチは、既存の福祉や教育制度とは異なる新たな社会関係資本の創出につながると思う ・若者の孤立支援と自己肯定感向上が、明確な活動となっている ・企業、教育機関との連携が、濃密な点も高く評価できる
	えんtoえん	滋賀県東近江市	未来の当たり前（日常）を共創する	本事業「未来の当たり前（日常）を共創する」は、孤立する若者や支援者を対象に、地域に根づく持続可能な応援し合うしくみを構築することを目的としています。家でも職場でもない第3の場「大萩基地」を拠点に、孤立する若者（「働きもん」）が安心して自己表現でき、役割を見出せるプロセスを支えます。また、若手支援者や活動者がチームとしてつながり、地域課題や支援の壁に向き合う力を培います。 活動は、①安心の拠点づくりと地域で働き暮らす力を育む応援、②若者の自己理解を促す個別対話（スナック型）、③拠点リノベーションを通じた協働型の支援ネットワークづくり、④共通言語を育むマインド勉強会、⑤地域資源を再発見する体験型視察研修、の5つを柱に展開します。 これらを通じて、支援する側・される側という固定的な関係性を超え、互いに応援し合いながら生きている地域づくりを進めます。若者が孤立から脱し、自己肯定感を高め、やがて地域で役割を担う側へと成長する「応援の循環」を生み出します。同時に、支援者や企業、市民も地域課題を自分ごととして捉え、共に担う意識を育みます。 将来的には「なんとかなる」「あんたがやってよかった」と声が交わされる、孤立のない日常を地域全体に広げることを目指します。	10,710,000	< 直接事業費 > 9,236,400 < 管理的経費 > 963,600 < 評価関連経費 > 510,000	・地域の孤立対策と多世代支援につながる活動となっている ・地域住民、ボランティアとの協働が重視されている点が、高く評価できる ・多様な人が活動に参画できる活動だと感じた
	えがお	滋賀県東近江市	地域の多世代がつながる居場所	地域に住む人同士の出会いを大切にしながら、顔が見える関係を築き、豊かな人間関係を育むことで、地域で孤立する人（子育て中の親や高齢者等）をなくし、「困った」「助けて」と言わなくても、助けあえるコミュニティの再構築を目指す。これまで活動で築いてきた地域との関係をより拡げていくため、人と人とが出会い、緩やかにつながり合える関係性を生み出す活動を展開する ・こども食堂の開催…乳幼児以降もつながり続ける場。また多世代が出会い、孤食を防ぐ ・小中高生の親同士の意見交換…親同士の子育ての悩みや思いを共有し、子育ての孤立を防ぐ ・お父さん同士がつながる場づくり…お父さん同士で子育てについて、相談したり情報交換できる関係づくりをする ・小中学生の居場所の拡大…現在の週1回ではなく、常時小中学生が来ることができる場を整備する ・カフェやマルシェの開催…地域の大人（特に高齢者）も、気軽に来ることができ、子ども達や地域の人と顔なじみになり、声をかけあえる関係となれる場にし、また地域の人の得意を活かせる場にする ・地域の人が「先生」になる講座やイベントの開催…地域の人の趣味や得意が活かす。また、子ども達の「先生」となることで、子ども達との関係性をつくる ・保護者や子どもが何かあった時に避難できる場の整備…身近に頼れる人がいない保護者や子どもが、安心して避難できる 場の整備	15,435,000	< 直接事業費 > 14,522,300 < 管理的事業費 > 177,700 < 評価関連経費 > 735,000	・地域課題をしっかりと捉えられており、地域の巻き込み方もよく今後の活動への期待は大きい ・「地域力をあげる」という言葉に、子育て支援だけでない今後の地域づくりに大きな期待がもてる ・地域とのつながりが強く、地域にも認められている団体であり、活動だと感じた ・団地のコミュニティの活性化に期待したい
	八日市おかえり食堂	滋賀県東近江市	八日市おかえり食堂	学校に行きづらさを感じ家で過ごす時間が多い子どもやひきこもりの若者、その子どものお家の方のための居場所を開催する。現在開催している平日の居場所との違いは、開催曜日や時間を増やすことで、参加者の参加できるタイミングの機会が増える。また、居場所に関わる大人を増やすことで、安定した開催が継続でき、居場所を開けつつ、家からも出づらい子たちには訪問し出会う機会を増やしていったり、開催曜日や時間も増えたことで対応できる対象者の増加につなげる。 居場所に関わる大人には、学校関係者などの子どもたちに近い大人の参加をつなげ、学校や先生への信頼や安心感を取り戻せる関係を構築できる場所にもなり、学校という居場所が子どもたちの再びの選択肢に戻るように、また、信頼できる大人が増えることで安心して挑戦してみたいことを見つけていける環境づくりができる。 開催に必要な環境管理の維持と、環境管理が整うことで平日日中から夕方までの開催機会が増える。子どもたちやそのお家の方が必要と感じた時に随時応えていける環境を作るために、実行団体が管理主体となる拠点づくりに取り組みかかる。 また、弁当の配食を届けることで居場所に来ることが難しい子や、食事支援の必要な家庭へのアウトリーチ支援でつながりを継続している。弁当を作れる日が増えるとアウトリーチ箇所数や頻度も増えるため、支援家庭とのつながりも太くなる。	18,375,000	< 直接事業費 > 17,227,000 < 管理的事業費 > 273,000 < 評価関連経費 > 875, 000	・商店街との連携は、非常に良い。新たな連携のモデルになる。 ・商店街だけでなく、さらに企業との連携の強化等、持続可能な仕組みづくりへとつながると良い。
	特定非営利活動法人 immi lab	京都府京都市	地域企業と市民総働で育てる移民ルーツ若者のキャリアレジリエンス	NPO法人immi labはこれまで伴走型レジリエンス（困難を乗り越える力）育成事業プロジェクトボンテを通して、県内の移民ルーツの若者の日本社会からの孤立を防ぎ、特に進学先の可能性を広げる活動を行ってきた。本事業では、移民ルーツの若者のキャリア選択肢と就職先を幅広く拡大するため、地域企業や市民との持続的な協働体制を構築する。これまで培ってきた若者の本音に伴走するノウハウや日本人メンターとの対話の場の設計経験を活かして、移民ルーツの若者の現実的なキャリアの可能性を本人と先輩らへのヒアリング、若者と企業・市民の対話始めの場作り、協働事業の実施を行う。日本で育った移民ルーツの若者が社会で自分らしく働き暮らす場を見つける過程で、関わる企業や市民が移民やマイノリティに対する理解と考え方を深め、企業力の向上につながるような対話のしかけを設計する。また、移民ルーツの若者の伴走に特化した団体として、連携先外国人学校と市内での拠点設置と他市民団体との連携を通して、地域市民全体で移民ルーツの若者がとりこぼされない仕組みを構築する。協働事業と研修内容は収益化を目指して開発し、企業やボランティアとのネットワーク整備も期間中に実施することで、事業継続の基盤を作る。助成期間後の県内他市への拡大を視野に入れ、東近江モデルの構築を目標とする。	17,955,000	< 直接事業費 > 14,887,360 < 管理的事業費 > 2,212,640 < 評価関連経費 > 855,000	・外国ルーツの若者のニーズに、的確に対応した活動であり、今後行政や学校との協働を強化するといった点も高く評価できる ・市の施策とも、今後しっかりとつながっていけると良い
	こどもの居場所ひがえど	滋賀県東近江市	地域の人が見守り、寄り添い、子どもの生きる力を育む「ひがえどほっとステーション」	【地域の人が見守り、寄り添い、子どもの生きる力を育む「ひがえど ほっとステーション」整備事業】 「共働き世帯の子どもや外国にルーツをもつ子ども達を、放課後や長期休みの期間、家にひとりぼっちにしない。」 本事業は、次世代を担う子ども達が地域の人とつながり、安心して好きなことに取り組める時間と空間を、「地域の総力」で支えていくことを目指す事業。特に、子どもの孤食を減らし、家庭環境による学習や体験格差を縮めるとともに、子ども達ののびのびと成長できる機会を広げていく。あわせて、保護者が安心して働き、肩の力を抜くことができる支援にも取り組む。子ども達が友達と遊び、おしゃべりをし、自然なふれあいの中で育ち合える時間を保障するため、地域企業や地域団体と連携して、大人も子どもも安心できる放課後や長期休みの居場所を整備する。 整備した拠点では、 ① 放課後支援（平日・年間約250日） ② こども食堂（年間約50日） ③ 長期休みの居場所（年間約50日） を展開する。宿題支援や学習サポート、料理、外遊び、工作など、さまざまな体験を通して、子どもの社会性や自己肯定感、生きる力を育んでいく。 さらに、高校生や大学生をボランティアやアルバイトとして受け入れ、世代を超えた交流を促進する。子ども達も若者も、地域の大人たちも、互いに関わり合いながら育ち合う、あたたかいつながりのある地域づくりを目指す。	5,145,000	< 直接事業費 > 4,750,000 < 管理的経費 > 150,000 < 評価関連経費 > 245,000	・企業との連携が多様であり、活動や運営の継続性が見込まれる ・多世代支援の切り口が地域性に即していると感じた ・活動が継続していけるスタッフの確保をしていただきたい